

貸借 対照表

決算時の資産や負債状況が分かります

学校や道路など市が所有している施設や、現金、債権などが年度末でどのくらいあるのか、また、そのために使われた財源を示したもので、どのように資金が調達され、また、その資金をどのように活用しているのかが分かるようになっています。

借方・貸方が同額でバランスがとれていることから、バランスシートともいわれます。

貸借対照表 総資産1,000万円の 家庭の家計に例えると…

借方【資産の部】

●有形固定資産…866万円

家、土地、車、テレビ、洗濯機、冷蔵庫など



●投資的資産…63万円

養老保険、住宅積立預金など



●流動的資産…71万円

現金、普通貯金など

資産合計 1,000万円

貸方【負債の部】

●負債…207万円

住宅ローン、自動車ローンなどのローン残高



●純資産合計…793万円

今まで資産形成に使った返済の必要がないお金

負債・純資産合計 1,000万円

●有形固定資産

これまでに学校、道路などの建設事業に使われたお金の総額です。道路や建物などの建設費は、価値を見直す減価償却をしています。また、土地代は購入時点の価格で計上しています。

●投資的資産

関係団体への出資や、まちづくり基金、緑の基金などに蓄えているお金です。

●流動的資産

現在持っている現金などのほか、必要時にすぐに現金化することができる基金、市税など市に納めてもらうお金のうちで、まだ収入されていないものも含まれます。

●平成22年度

高山市の普通会計

借方（資産の部）

有形固定資産

学校、道路、橋、市庁舎など
2,540億6千万円
売却可能資産 7億1千万円

投資的資産

基金（固定的なもの）、
出資金など
186億6千万円

流動的資産

現金預金、基金（現金化が容易なもの）、未収金（税など）
208億1千万円

計 2,942億4千万円

市民1人あたりの

借方

有形固定資産
売却可能資産
273.0万円

投資的資産 20.0万円

流動的資産 22.3万円

資産合計 315.3万円

借金は貯蓄の約1・48倍

貸借対照表を読む 「貸方」は、資金の調達方法であり、市がこれまでどうやってお金を集めてきたかを表します。一方、「借方」は、資金の使用実績であり、資金が何に使われ、どれだけの資産が残されているかがわかります。資産の2942億円のうち2547億円がこれまでの行政活動によって形成された資産となります。これに対する財源として、市債が482億円、国・県補助金が438億円、残りが市税などの一般財源となります。また、貯蓄に相当する基金の合計が326億円ありますが、それに対する借入現在高は482億円で、貯蓄に対して借金が約1・48倍になることがわかります。しかし、借金の額は21年度と比較するとこの1年で26億円減っています。